



目録

一 夕方のそとんかんごまの事

一 日ちのそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事

一 夕方のそとんかんごまの事



Handwritten notes and ink smudges on the right page, including the characters 'き' and 'は'.

一 ちのりひとく 一 母丹をびあよりをすけり
 一 正心九身をすけり 一 利て普くをひきかかれ
 附りたるはちよかむけり 一 心ゆいのみ

廿七日せんどもくせんめん



廿八日ちんちんめん



ちのりひとくをすけり
 めんめんをすけり
 正のちんちんめんをすけり
 のりひとくをすけり
 ちのりひとくをすけり

大悲観音の徳目十四日

ちのりひとくをすけり
 めんめんをすけり
 正のちんちんめんをすけり
 のりひとくをすけり
 ちのりひとくをすけり

大悲観音の徳目八日

十九日ちぢんていさんめん



廿日ちぢんていさんめん



廿一日ちぢんていさんめん



廿二日ちぢんていさんめん



大光菩薩観音菩薩の御日
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん

大光深遠観音菩薩の御日

天人を交観音菩薩の御日
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん

天人を交観音菩薩の御日

大光菩薩観音菩薩の御日
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん

大光菩薩観音菩薩の御日

ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん
ちぢんていさんめん

御日無量観音菩薩の御日

九三日のしち



五月朔日より十五日迄
九日一日より十五日迄
十五日迄
廿九日
廿九日
廿九日

正月朔日より十五日迄

九日一日より十五日迄
十五日迄
廿九日
廿九日
廿九日

觀音經秘鍵

世尊妙意觀世音金剛座寶乃まんげあを
歴劫不思議のこめらしく信徳乃ぬら
事とあつた弘誓深如海乃あひらりあつた
あひ還著於木人の所とて先咀諸毒業の
病とあつた念彼觀音力とあつた所欲害身れ款
とあつたばと發大清淨觀乃流の水々領勝天想
のわつたは我為汝畧説乃ゆりりて
身れあつた心念不變乃せよのハ結
有苦れ雲とね念念勿生疑乃月乃

推落大火の雨ふれは火坑のひさせりあはれ
起りておぼしめて和光垂迹のまじりてわろく
製す電がぶくちも大いなるれきんせをんの佛
妙音觀世音ころの八世に福聚海もろりし
檀金のあはれりあはれ法性のくみ以偈同日
後ひて我今重同彼の秋の丹世尊妙相具あり
のれ常すのころのひのひ。生死のまじりしゆら
紙れまのりともふ。慈眼視衆生つよのいじり
ゆんびのまんかんつに諸願成就のりまゆんぞく
急々如律令と敬白

めうりのまんげらまうらまんせめんがら
あらんかんこの千五
あどじめんおがらぞくまにめんかん
うけんろちあうらあつあせめんせん
せめんがらうらめんかんあらんせめん
あつらうらめんおがらめん—あやう
ひつらあう百あ方とああまあまま
あらんせらんせめんがらうらあらん—あ
まらんせめんがらうらまんとせん
うらうらうら



觀してはる解脫をけり
 りの觀世音菩薩のとおとまのつわひ
 のぶさひあひたのひよのまも守りてあそ
 あつとどの菩薩の威神たつたふらふゆ
 りりあひたのふらふあひたふらふ
 よもこの名号と稱せばあつらひあつた
 ろつとけりん。百千万億の衆生あつて金銀
 瑠璃車乘馬瑠璃珊瑚席珀真珠等乃あつて
 りあひたの大海のつらふ。あつたふらふ
 らせその船舫とあつて維刹界のつらふ



よういあらびりあてのあはれなり乃至一人あ
 て。觀世音菩薩のまかと稱せむ。ありのくの
 びららるる羅刹の難と解脱とあはれとせん
 りの因縁とて觀世音とあはれ
 りまのいひてわつてまはるる言せむあはれ
 のぞとて。觀世音菩薩のまかと稱せむ。ありの
 らららびりあてのあはれなり乃至一人あ
 らとれく解脱とあはれとせん。ありのくの
 國土乃かみえららびりあてのあはれなり乃至一人あ
 せとあはれとせん。ありのくの觀世音菩薩

音

樹の葉と梅の花はまじらぬの如く
悪鬼の心と善人の心はまじらぬ
あまのこころと悪人のこころは

あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは

あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは

あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは
あまのこころと悪人のこころは

南無観世音菩薩とすのありと稱するゆえ

一

南無観世音菩薩とすのありと稱するゆえ



礼釋せば福ひのりら下このゆへも衆生も
観世音菩薩の名号と受持とすべし。無盡意も
ひのりく六十二億恒河沙の菩薩の名号
と受持し。まじらるとはひのりく飲食衣
服。卧具醫藥と衣養せんめんらぐうに
ひのりく。善男子善女人の功徳なりや
いふべし。無盡意はのりく。らるるが
世尊なりけり。のりく
りまるとはひのりく。観世音菩薩の名号と
受持し。乃至一時に礼拝供養せん。人の福

びんごのあは 歡世音菩薩のあはらるる佛身
 と現とてあはの法とらる 辟支佛の身とて
 得度とらるごのあはらるる 辟支佛の身
 と現とてあはの法とらる 聲聞の身とて得
 度とらるごのあはらるる 聲聞の身と現
 とてあはの法とらる 梵王の身とて得度
 とらるごのあはらるる 梵王の身と現
 とてあはの法とらる 帝釋の身とて得度
 とらるごのあはらるる 帝釋の身と現
 とてあはの法とらる 自在天の身とて得度

びんごのあはらるる 自在天の身と現
 とてあはの法とらる 自在天の身とて得
 度とらるごのあはらるる 自在天の身と
 現とてあはの法とらる 天大將軍の身とて
 得度とらるごのあはらるる 天大將軍の
 身と現とてあはの法とらる 毗沙門の身と
 りて得度とらるごのあはらるる 毗沙門
 の身と現とてあはの法とらる 天王の身と
 て得度とらるごのあはらるる 天王の身と
 現とてあはの法とらる 長者の身とて得度

とくまののちけりかめら長者の身と現すと
あはれ法とく。居士の身とく得度とくさ
のあはれ法とく。居士の身と現すとくあは
れ法とく。宰官の身とく得度とくさくあ
あはれ法とく。宰官の身と現すとくあはれ法
とく。婆羅門の身とく得度とくさくあ
あはれ法とく。婆羅門の身と現すとくあは
れ法とく。比丘比丘優婆塞優婆塞の身
とく得度とくさくあはれ法とく。比丘比丘
居士優婆塞優婆塞の身と現すとくあはれ法

とく。長者居士宰官婆羅門の婦女の身と
く得度とくさくあはれ法とく。婦女の身
と現すとくあはれ法とく。童男童女の身と
く得度とくさくあはれ法とく。童男童女の
乃身と現すとくあはれ法とく。天龍夜叉
閻婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非
人等の身とく得度とくさくあはれ法とく。執金剛神
の身と現すとくあはれ法とく。無盡意。こら



觀世音菩薩の功徳と成就
衆生と度脱したるものゆへに
あつとひらあつと觀世音菩薩を
畏急難れあつと觀世音菩薩摩訶薩に
ふら此娑婆世界に
無盡意菩薩は
觀世音菩薩を
供養す



此の如くは、
 捨つるものも、
 して、
 仁者、
 無盡意、
 觀世音菩薩、
 天龍夜叉、
 乾闥婆、
 阿脩羅、
 提持

普

羅刹那羅摩羅伽人非人等と何んか
ゆふよの櫻洛とひかきくもくもくらの
らば観世音菩薩のつくは四衆と
天龍人非人等と何んか
りえわらして二分はのく。一分は釋迦牟尼佛
いそゆつ。一分は多寶佛塔にそゆつ
無盡意觀世音菩薩はがれおれ自生神力
ありく。娑婆世界にわきびあふそのな
無盡意菩薩偈とそらひそまら
ゆ

世尊のあつ相をくらんあつたわき
きゆくゆはよひそあつ。佛子とらん
わらそあつ。觀世音とふ。妙相と具
あつ。尊偈とそ無盡意にそあつ。
あんら觀音のよそはつ。此方
ぞとそけ。知。知。言。乃。あつ。は。く。う。そ。は。お。も。
却とあつ。あつ。い。う。う。う。あつ。の。千。億。の。か。
ひ。は。は。う。大清淨れ顯とわら。わ。き。さん。
ら。あ。に。あ。つ。う。ん。あ。つ。う。あ。つ。ひ。
と。こ。の。念。と。あ。つ。あ。つ。あ。つ。う。う。う。う。う。



觀音と念ぜんらうに釋然らうと解脫らう
 ありとていひ呪願とりあはせ毒藥らう。と云
 言ぜんとせしむるの。の觀音と念ぜんら
 うにらうそののひらうきめんあうひあ
 羅刹と毒龍とりあはせ毒藥らうあうひあ
 の觀音と念ぜんらうにらうあうひあ
 わうとせしむるの。の觀音と念ぜんら
 うにらうそののひらうきめんあうひあ
 の觀音と念ぜんらうにらうあうひあ
 けうらうらうん。地氣らうひあうひあ



煙火のゆるぎなきわらんまの観音と念
 ぜんらんにあまのつぎにあらうらるる
 びらもとりあらうらつぎひびるるびり
 一わもありのあらにうらあつとそかんあつ
 の観音と念ぜんらんにあらうらるるる應
 きしらつあらうらつとげん衆生困厄とく
 無量の昔とあつとあつとあつとあつと
 乃らららるる世間の苦とあつとあつと
 遍れらるる具足しつらうずむる方便と備
 しそま方のらるる此國土にあらうららるる

始らばなりたまふ。諸の徳と具しあはれたり
はるごとく衆生とてまがらふを福聚れども
無量ありしものゆへ頂礼しこそうろく
そのはは持地菩薩とてくら座よりさう
すもてやひのゆしてものありて世尊の衆生
わりの観世音菩薩品自在の業普門示
現神通のらとていんめいゆらんていんめい
ら。功德とてまがらふにやひの普門品とていん
ひらば小衆中に入らば無生とて無事
等阿耨多羅三振三菩提とてわく

○らんらんさやうちうちや
いふらんらんさやうちうちや
故よりとてまがらふにやひの普門品とていん
磨のらとていんめいゆらんていんめい
たらとていんめいゆらんていんめい
ひらとていんめいゆらんていんめい
ぶらとていんめいゆらんていんめい
あらとていんめいゆらんていんめい
らとていんめいゆらんていんめい
のらとていんめいゆらんていんめい
ぶらとていんめいゆらんていんめい
●観世音菩薩とていんめいゆらんていんめい
らとていんめいゆらんていんめい
せらとていんめいゆらんていんめい
とらとていんめいゆらんていんめい
らとていんめいゆらんていんめい

見

新編御相傳 徳日并佛果至

正月十七日	三万七千日	ある	三途の教との
二月八日	四万六千日	ある	なるの教との
三月九日	四万六千日	ある	た途乃の教との
四月九日	一万千日	ある	たそのの教との
五月九日	三万七千日	ある	たそのの教との
六月三日	六万千日	ある	たそのの教との
七月二日	七万二千日	ある	たそのの教との
八月十日	九万七千日	ある	たそのの教との
九月三日	七万七千日	ある	たそのの教との
十月九日	八万四千日	ある	たそのの教との
十一月朔日	九万千日	ある	たそのの教との
十二月十日	一万千日	ある	たそのの教との

